民報
あばしり
NO.1329
8月22日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四三-四四五八
F 四三-四四五七

反戦・平和を訴える！

8・15終戦記念日

日本共産党網走市議団は、終戦記念日の15日、市内6ヶ所で街頭宣伝を行いました。

松浦・村椿の両議員は、「日本が引き起こした第2次世界大戦で、2000万人を超えるアジア諸国民と国内においても310万人を超える尊い命を奪ったこと」を反省し、日本国憲法ができた。前文では「政府の行為によってふたたび戦争の惨禍が起こることがないようすることを決意した」、9条では、「国権の発動たる戦争と、武力の行使は放棄する」という、平和憲法を手にした。

しかし、この平和憲法を安倍・菅自公政権は、安保法制・戦争法や、集団的自衛権の行使を認める。共謀罪法など憲法違反の法律を強行採決で成立させてきた。

総選挙で日本共産党を

二度と戦争しないためにも秋に行われる衆議院選挙では、野党共闘のかなめである比例で日本共産党を大きく躍進させて、「はたやま和也」さんをふたたび国会へ、野党共闘を成功させ、12区では「菅原誠」予定候補の勝利を、それが菅自公政権を終わらせる道です」と熱く訴えました。

走行中の車から手を振る方もいて、両議員は元気に訴えていました。

原水爆禁止世界大会　長崎集会
世界を創造し直す時

8月9日、原水爆禁止網走協議会は、エコーセンターにて「原水爆禁止世界大会長崎集会（オンライン）」を開きました。新日本婦人の会など10名の参加で進められました。

集会では、長崎や韓国の被爆者、オーストリアなどの各国代表、アメリカなどの各国の平和運動代表らが発言しました。

IPB（国際平和ビューロー）のフィリップ代表は、「パンデミック、気候危機、軍事化、不平等が示したのは、持続可能な平和から遠ざかりつつある中で、優先順位が間違っていること」だとし、「私たちの世界を創りなおす時が来た。」と訴えがありました。

世界大会（2日～9日）の間で9000人が参加したと報告がありました。参加者からは「世界大会にみんなで参加し、平和への想いを共有できたことが良かった」と感想がありました。

松浦さとし奮戦メモ！

今月も訪問活動をしていますが「菅首相どうなっているの？何とかならないのか。コロナがこんなに感染拡大しているのに、記者の質問にはトンチンカンの答えで何を言っているか分からない。オリンピック、パラリンピックをやっている状況じゃないでしょう。自粛を求めるだけでなく、具体的な感染防止策を示すべきだ。なんだか他人ごとのように話をしていて無責任だ」などなど、手厳しい批判の声が菅政権に向けられています。

私は、「秋までには衆議院選挙があるので、菅さんには辞めてもらいましょう。日本共産党は野党連合政権を作ろうと野党共闘を呼び掛けています。比例では日本共産党を応援してください」「小選挙区では野党共闘の候補者を応援してください。12区は菅原誠党北見地区委員長が立候補を予定していて、ここでも野党共闘を実現したいと思いますので応援してください。友人・知人にも声をかけてください」とお願いしています。

村ちゃんが駆ける

網走市の高齢化率は32％超え、出生者数は200人をきり、将来を心配する声が聞こえます。

最近、働いていない娘と二人暮らしだが自分が亡くなった後が心配だとか、年金受給者が仕事を持たない子どもと暮らす方からの相談が多いです。いわゆる8050問題ですが、政府の取り組みはまだまだだと思います。市は現状をつかんで、一人ひとりへの働きかけが必要だと思います。市のホームページを見るとひきこもり対策は生活サポートセンター「らいと」や子育て支援センターで対応しているようです。どのようなサポートがあるのか、相談したいと思います。

娘と一緒なら介護が必要な親にしてみると、非常に安心だと思いますが、親子ならではのトラブルもあると思います。介護の仕方や高齢者への接し方について家族の方にも知ってもらうことが大事です。

市では介護人材確保のために「介護職員初任者研修受講料」の補助（二分の一）を行っています。高齢者の家族と暮らす子どもや孫（ヤングケアラー）にも制度を適用できないのか、調べたいと思います。

流氷

夏の日差しが焼けるように暑いころになると、どうしても読みたくなる本があります。『ナガサキ』（著：スーザン・サザード　みすず書房二〇一九年）です。▼昨年の夏、何度も何度も読みました。それほど私を引き付けたのは、アメリカ人の筆者の、事実に向き合う誠実さでした。彼女は、十四年の長い歳月をかけ、多くのアメリカ人とともに、膨大な資料を調べあげました。また、被爆者にインタビューし、それを多用したこと、そこに私は感動し泣きました。日本で、このように原爆に向き合う人がどれだけいるでしょう。▼内容は、五人の被爆体験者の人生を柱に、当時の戦況や政治的かけひき、戦後の被爆者に対する政策、日本社会の移り変わりが記録されています。私はこの本で、3発目の原爆の存在を初めて知りました。そして人として最も大切なことを被爆者の言葉に教わりました。▼原爆についての世界の認識は変わってきています。日本人はどうでしょうか。

かーこ